

令和6年度 事業計画



千葉科学大学附属高等学校

千葉科学大学附属高等学校は、多様な入学動機や進路希望、学習経験など様々な背景を持つ生徒一人ひとりに心身の発達や進路に応じて必要となる力を身に付けさせ、社会に貢献できる人材を輩出します。



かつてないほどのスピードで変化する社会情勢に対応することが求められる現代社会において、本校では、国内外の生徒一人ひとりの入学動機や大学等への進路希望に寄り添いながら、多様性への理解や主体性、問題解決能力を育成してまいります。

今、日本社会における人口減や労働力不足問題は、喫緊の課題としてその対応が国民一体となって取り組まれています。こうした背景に鑑み、本校では積極的に海外生徒を受け入れ、我が国の伝統や文化、習慣に慣れ親しんでもらうとともに、卒業後は千葉科学大学をはじめとした関連大学等に進学させ、将来的には我が国の労働力を支える人材を育成・輩出することを最大の目的としています。

また、学園建学の理念の下、学びの多様性が叫ばれる昨今、地域の学びのセーフティーネットとしての役割を果たしていくことも本校が果たすべき責務であるとの認識に立ち、通信制課程の強みを活かして生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出せるようなカリキュラムを提供しつつ、進路の実現に向けて有意義な高校生活が送れる環境を提供してまいります。

これらの教育活動を実践するにあたり、以下に記載したとおり、教育・研究推進のための「グラデュエーション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」及び「アドミッション・ポリシー」、ガバナンス体制と人材育成を柱とした目標等を設定し、同時に各政策における中期目標並びに具体的事業計画を立案いたしました。

本年は学校の完成年度である開校三年目を迎え、国内生徒の充実はもとより、主眼としている海外生徒の入学についての取り組みについても改善を図り、事業の遂行に努めてまいります。

千葉科学大学附属高等学校 校長 早川 昌二

I. 教育・研究の推進

1. グラデュエーション・ポリシー（GP）に関する目標

生徒の多様な背景を基礎とし、個々の能力・適性・興味・関心に応じた将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させる。また、学校教育活動を通じて、外国籍の生徒は、十分な日本語能力の修得及び日本の文化や伝統、風習に慣れ親しむこと、資質・能力を育むことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を具現化するための学校自己点検・評価の実施。	【1-1-1】	・本校の GP を具現化するため生徒個々の履修状況、面談記録、既卒後の進路等を元に、生徒の希望に沿った教育が実施できているか、自己点検・評価を行う。
	【1-1-2】	・学習等連携協力施設に在籍している生徒に対し、ZOOM 等を活用し学習状況を確認するとともに、学習等連携協力施設の協力の下、学習環境アンケートを実施し、施設ごとの評価を行う。

2. カリキュラム・ポリシー（CP）に関する目標

本校の GP（グラデュエーション・ポリシー）を達成するため、生徒一人ひとりの能力・適正・興味・関心に応じたカリキュラムを運用することを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 外国籍の学生に対するカリキュラムの運用	【2-1-1】	・外国籍生徒の語学能力、基礎学力に応じた段階的な履修科目指導を行う。また、レポート添削に関しても、生徒の語学力に応じた適切な添削指導を行う。
2. 国内の学生に対するカリキュラムの運用	【2-2-1】	・各期に実施する三者面談を元に、国内の生徒の背景、将来の進路に応じた個別の履修科目指導を行う。
3. 千葉科学大学と連携した教育の推進	【2-3-1】	・将来的な千葉科学大学等の関連大学への進学を視野に入れ、広報活動、高大連携科目開設を含めた高大連携のあり方を大学とともに継続して推進する。

3. アドミッション・ポリシー（AP）に関する目標

本校のスクール・ミッションを現実化するために、教育活動に沿って学びうる生徒像を定め、その受入を行うことを目標とする。

中期計画	事業計画	
1. 将来的に日本で就労を目指す国内外にいる外国籍の生徒の受入の推進	【3-1-1】	・将来的に日本で働くことを希望する生徒を海外から受け入れるために現在の教育提携機関との連携体制を強化する。また、現地機関を訪問する際に、直接進学希望者に説明を行う等、海外からの生徒の受入を強化する。
	【3-1-2】 （【1-1-2】と同様）	・学習等連携協力施設に在籍している生徒に対し、ZOOM 等を活用し学習状況を確認するとともに、学習等連携協力施設の協力の下、学習環境アンケートを実施し、施設ごとの評価を行う。
2. 様々な事情により全日制課程に進学することが困難な生徒の受け入れ体制の構築	【3-2-1】	・地域の中学校・高等学校と生徒指導に資する連絡体制を強化し、受入生徒に対する情報共有、支援ができる体制を構築する。

中期計画	事業計画	
3. 学びの場の多様性を背景とした、より自己活動の時間を求める生徒の受け入れ体制の構築	【3-3-1】	・生徒一人ひとりの興味・関心、将来の進路に応じたカリキュラムを提供し、可能な限り個々の事情に応じた受け入れを行う。

4. ガバナンス体制と人材育成に関する目標

高等学校の質保証に資する自律的なガバナンスの充実・強化、及び将来に向け人材育成を行う。

中期計画	事業計画	
1. 本校の目的達成のためのガバナンス体制の構築	【4-1-1】	・引き続き、高等学校の運営に必要な規程、細則を整備するとともに、将来を見据えた生徒担任業務、校務分掌分担を整備する。
2. 教職員の資質向上に向けた取組	【4-2-1】	・将来の高等学校運営に係る人材育成に資する研修、海外からの生徒受入に向けた研修を実施する。また、管理職による教職員個々への面談を含む教員の自己点検評価を実施する。

主な行事予定	
4月15日	前期入学式
4月23日	前期第一回スクーリング実施
5月22日	海外交流会
6月21日	日本語スピーチコンテスト
7月 7日	第2回オープンスクール
7月23、24日	前期単位認定試験
8月 4日	第3回オープンスクール
8月23～29日	前期海外集中スクーリング
9月 8日	第4回オープンスクール
9月21日	前期卒業式
10月 5日	後期入学式
10月20日	第5回オープンスクール
11月9、10日	文化祭
11月17日	第6回オープンスクール
11月25、26日	学修旅行
12月13日	日本語スピーチコンテスト
12月15日	第7回オープンスクール
1月29、30日	後期単位認定試験
2月15～21日	後期海外集中スクーリング
3月10日	後期卒業式

学生数・教職員数

■在籍学生数

(令和6年5月1日現在)

課程・学科・コース名	入学者数	収容定員	在学者数
広域通信制課程 普通科	23	400	74

■教職員数

(令和6年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計	事務職員
1	1	6	8	2

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

			(単位：千円)	
年度 科目			令和6年度 予算額	令和5年度 決算額
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	31,002	12,844
		経常費等補助金	0	0
		その他の収入	911	550
		計	31,913	13,394
	支出	人件費	63,672	62,655
		教育研究経費	22,341	6,062
		管理経費	19,443	5,100
		その他支出	0	0
		計	105,456	73,817
	教育活動収支差額		△ 73,543	△ 60,423
教 活 外	収	受取利息等	0	0
	支	借入金利息等	0	0
	教育活動収支差額		0	0
経常収支差額		△ 73,543	△ 60,423	
特 別	収	資産売却差額等	0	0
	支	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額		0	0
基本金組入前収支差額			△ 73,543	△ 60,423
基本金組入額合計			△ 100	△ 800
当年度収支差額			△ 73,643	△ 61,223

■財務改善に向けた取組

本校は、令和4年開校の高等学校であり、主として、海外の外国籍の生徒を受け入れ、千葉科学大学をはじめとする関連大学に進学し、将来的な労働力を支える人材の育成を目的としている。

開校当初はコロナ禍の影響もあり、海外提携機関からの受入生徒数はかなり厳しい結果となったため、昨年の3月・5月・7月に韓国・モンゴル・中国の海外提携機関を確認訪問し、併せて生徒募集及び教育提携を行った。本年度は韓国に代えてタイ国の海外提携機関を確認訪問する予定である。また、中国からの生徒の受入が滞っているケースもあり、個々に早急に対応していくことで10月からの生徒受入に繋げていく。加えて、新たな海外の教育提携機関開拓を行うとともに、現在、窓口になっている国内の日本語学校にも働きかけを強め、生徒確保を目指す。

また、国内の生徒受入に関しては、学びの場の多様性を受け、地域社会の学びのセーフティーネットとなるよう、地域の行政、教育機関、福祉施設等との連絡・連携を密に取ってきたことによって、地域からの本校に寄せる信頼も得られている。引き続き生徒一人ひとりに寄り添った指導を展開していくことで、今年度末には国内の募集定員枠は埋まる見込みである。

■施設設備整備計画（抜粋）

完成年次を迎える令和6年度末までは新たな施設設備計画は無いが、千葉科学大学の施設と共用して利用している現存施設に関し、必要に応じて、経年劣化による修繕、部品交換等を行っていく予定である。

主な施設関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	

主な装置・設備関係

(単位：千円)

事業名	金額
該当なし	